

乾燥した屋内で保管すること。

ラベルをよく読む。

記載以外には使用しない。

小児の手の届く所には置かない。

適用雑草と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	使用方法	総使用回数※	
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地等	一年生雑草	雑草発生前	5~10 g/m ²	植栽地を除く 樹木等の 周辺地に 全面 土壌散布	本剤及び プロマシルを 含む農業	DCMU を含む 農業
		一年生及び 多年生雑草	雑草生育初期	10~20 g/m ²			
		雑草生育期	20~40 g/m ²				

※は本剤及びそれぞれの有効成分を含む農業薬を、年間に同一場所に使用できる総使用回数の制限を示す。

- 雑草発生前では1㎡当り5~10g、生育初期では1㎡当り10~20g、生育期では1㎡当り20~40gを均一に土壌に散布します。

使い方

point 1 散布時期は雑草の生える前から草丈40cm以下

●雑草が生える前から生え始めの散布がおすすめです。

●次の雑草には効果が劣ります。

●球根植物

●クズ等つる性植物

●ドクダミ等地下部が極端に発達する植物

●晩秋から早春にかけての低温期においては、雑草が枯れ始めるまでに1ヶ月ほどかかることがあります。

point 2 天候や土壌について

●地面が極端に乾燥していると効果が劣ります。

●水たまりが引かないようなときや、地面に撒いた粒が流されてしまうような豪雨が予想されるときは、散布しないでください。

●砂質土壌では使わないでください。

●次のような土壌では効果が劣ることがあるので注意してください。

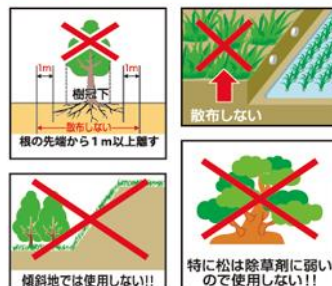
●湿地などの粘土質土壌 ●砂利が厚く敷かれている土壌 ●落ち葉・枯草等が堆積している土壌 ●土壌中に小石等の硬い物が混入している硬い土壌

●強い雨が予想される時や強風下での使用は避ける

散布上の注意

花壇、芝生、畑、水田（休耕田含む）、樹木などの枯らしたくない植物の周り、傾斜地では絶対に使用しない。

- 枯らしたくない植物の根が生えている場所には散布せず、根の先端が張っていると思われる場所から十分離してください。
- ※樹木の場合、横枝が伸びている距離（樹冠下）までは地中で根が伸びていることが予想されます。剪定している木の場合は、樹冠下よりもさらに根が伸びている場合があるので十分注意が必要です。
- 散布予定地より低い位置に農耕地や植栽地がある場合、成分が流出すると薬害を及ぼすおそれがあるので使用しないでください。
- 散布の際は周辺の住民に一声かけるなど配慮してください。
- 特に松は除草剤に弱いので、松の周辺では使用しないでください。



雑草生育初期散布の効果例



△効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- 散布適期は雑草発生前、雑草生育初期（草丈20cm以下）及び雑草生育期（草丈40cm以下）であり、生育の進んだ雑草には効果が劣るので、時期を失しないように散布する（効果）
- 樹木類等の植栽地に流入または飛散するおそれがある場所では使用しない（薬害）
- 植物の根から吸収されると薬害が発生するので、水田や水田への利用が考えられる用水路等に本剤の流入が想定される場所や、農作物および樹木類等有用植物の付近では使用しない（薬害）
- 本剤が流出するような激しい降雨が予想される場合は散布を行わない。
- 傾斜地や砂質土壌では、本剤の流出による薬害のおそれがあるので使用しない。
- 本剤を散布した場所やその付近では、植物の植付けは行わない（薬害）
- ハウス等の施設周辺では使用しない。
- 土壌が乾燥しているときは効果が劣る場合があるので、適度の湿り気のあるときに均一に散布する（効果）
- 水源池、飲料用水、灌漑用井戸、養殖池等に本剤の飛散や流入及び浸透が想定される場所では散布を行わない。
- 散布器具、容器はよく洗浄し、洗浄廃液は直接河川や用水路に流れ込まないように十分注意し、環境に影響を与えないよう適切に処理する。
- 空袋は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理する。
- 使用量、使用時期、使用方法を守る。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所または販売店と相談することが望ましい。

△安全使用上の注意

- 眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける（刺激性）
- 皮膚に付着しないように注意。皮膚に付いた場合は直ちに石けんでよく洗い落とす（弱い刺激性）
- 散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- 公園、堤とうなどで使用する場合は、散布区域に縄囲いや立て札をたて、散布中および散布後（最小限その当日）に関係者以外は立ち入らせない。小児、人畜等に留意する。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管する。
- 子供の手の届かない場所に保管する。
- 火災時は適切な保護具を着用し水・消火剤等で消火に努める。
- 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収する。
- 移送取扱いは、ていねいに行う。
- 【魚毒性等】河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意（藻類）散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さない。
- 【保管】密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷蔵・乾燥した所。

最終有効年月（西暦下2けた）・製造番号

製造元 **レインボー薬品株式会社** **SCC GROUP**
 住友化学 アグログループ
 東京都台東区上野1-19-10
 お問い合わせ TEL 03(6740)7777 平日9:00~17:00(土・日・祝日は休み)
 製造場 新富士化学株式会社 小郡工場 山口県山口市小郡下郷2370
 三笠産業株式会社 出雲工場 島根県出雲市多伎町小田2656
 小分製造場 新富士化学株式会社 姫路工場 兵庫県姫路市白浜町宇佐崎北1-158
 トーヤク株式会社 美浦工場 茨城県稲敷郡美浦村木原1876-10
 レインボー薬品株式会社 下館事業所 茨城県筑西市折本540